

平成 25 年度博物館協議会 議事録要旨

日時：平成 25 年 11 月 15 日（金）10:00～12:15

場所：いのちのたび博物館 会議室

出席者：委員：伊澤委員、泉委員、岩松委員、上山委員、木村委員、佐藤委員、染川委員、真鍋委員

（欠席：三島委員、森田委員、柳井委員）

博物館：伊藤館長、山家副館長、栗原普及課長、馬場自然史課長、松井歴史課長
ほか

議 事：1 平成 24 年度事業実績（博物館年報）について
2 平成 25 年度事業計画について
3 その他

次 第：1 開会
2 開会挨拶（館長）
3 博物館協議会委員紹介
4 会長、副会長選任 会長、副会長挨拶
5 議事
6 閉会

1 会長、副会長選任

○会長に真鍋委員、副会長に泉委員を選任。

2 平成 24 年度事業実績、平成 25 年度事業計画

○入館者数の中に外国人がどのぐらいなのか。国がある程度限られているのであれば、解説の展示や書かなければならない注意事項も変わってくる。

博物館）主に韓国、中国。22 年度は年間 13,000 人ほどあったが、情勢の変化のためか急減、最近回復傾向にある。解説については、中国語、韓国語、英語の解説パンフレットや音声ガイドを準備している。

○団体で色々な学校が来られると思うが、養護学校や身障者のクラスなどに対して柔軟な対応はされているのか。

博物館）ミュージアムティーチャーという体制があり、団体受付をした際には、要望等を伺って対応している。

○コレクションや研究の側面で何か特別な事例があれば紹介をお願いしたい。

博物館) リニューアルに合わせて新しい資料の導入ができた。研究面については、フィールドワークに出ることが多いが、可能な限り研究活動を行い、それを通じて標本の収集を目指していく。市の予算が厳しくなっていく中、なるべく外部資金を申請して研究費をアップさせるような体制をとっている。

○利用者が多く様々な活動をされているが、次のステップとして1人の利用者がどのように展覧会を見てどんな学びに繋がっているのかを検証することが必要。

博物館) 学校関係で下見に来られた段階でご意見を伺っている。また、市全体としても修学旅行の誘致の取り組みがあり、来館される団体についてこちらからアンケート調査票を送りご意見をいただいている。

館の利用状況や市内の施設の把握などについて、今年度からアンケート調査を始めた。

特別展ごとにアンケート調査を行っている。博物館実習でも来館者がどういうところを見ているのかの観察や、聞き取り調査を行っている。

○アンケートは引率者である学校の先生に対するものでなく、子どもの目線でどうなのかということを知る方法があれば面白い。子どもが自分で言葉にするのは難しい面があるが、同じものを見るときでも目線の高さが全然違うので大人が見る形と子供が見上げる形、捉える形は、随分違うと思う。

○大学生の方の来館を増やすために、例えばシーダーが大学生と直接関わり合って知識を教えていただく等が可能であれば、まずそういった方々にコンタクトをとってみたいことは出来るのか。また、研究者が資料を調べに来たいという場合には、どういった窓口で資料を提供していただけるか。

博物館) シーダーも高齢化しており、若い人がボランティア活動に参加するといった1つのキッカケを切り口に館との関わり合いを持つなど、色々なアプローチの仕方がある。ワーキンググループを館内で作り、ボランティアのあり方、来館者対応、来館者の増加に繋げることをどうするのかという意見交換をしているところである。

資料は、研究者がこういう標本を見たいのだけれどもということがあれば、個別に問い合わせていただいて一番近い分野の学芸員が担当する。貸出も同様の対応をしている。

○ハード面はかなり整備されてきている。ソフト面の方もユニバーサルデザイン、外国人対応、子ども目線の子どもミュージアムを作られ、きちんとした評価がなされている。これからは、ソフト面でどのように維持していくのかということが課題になる。

博物館) 平成26年度の特別展は以下を予定している。春は、3月15日から6月1日まで79日間の予定で哺乳類のネコの仲間に焦点を当てた展示会を計画している。

夏は「巨大生物展」で、7月19日から9月23日まで、出来れば9月の末ぐらいまで計画したい。

秋の特別展は「メタルズ！」ということで総務省の外郭団体「地域創造」というところからの助成金が採択された企画。

年度としては平成27年度になるが、「鉱物の魅力展」は、3月14日から実施し、会期中の平成26年度内としては18日間、おそらく平成27年度の5月初め、連休明けまでは展示を行いたい。

3 その他

○館の正面にはグリーングリッド構想で公園がきれいになって先月オープンした。これまで単体の博物館だったのが付近を通る人達や東田の環境の中に博物館があるようになった。博物館のアプローチにあるバラ園は、この協議会がきっかけでボランティアを行い、今年で4年目になる。このような館の部分と緑や環境ソフトな部分がやっと条件が揃った。館としてその辺の認識というものほどのように考えているか、環境としての立場でどのように関わっていくのかをお聞きしたい。

博物館) 館そのものの理念が自然と人間の関わりを考える博物館なので、環境面は一つの切り口として大きな課題と認識をしている。その中で東田地区にある当館もグリーングリッド等の事業に参画するといった考えで、昨年のリニューアルに合わせて館内の駐車場周辺の緑化部分を増やそうと実施した。館にあのようなバラ園があるということは館の魅力向上の1つと考えている。

環境問題に関しては太陽光発電や水素による燃料電池等を導入しており、化石燃料による電力に頼らないような取り組みを行っている。

Wi-Fi化は「館の見える化」のようなことだが、スマートコミュニティ事業を紹介する1つのツールとして補助金を得て行っている。

今年度中には当館の屋外テントの所で燃料電池車の電気を外や家でも使える設備を作ってモデル的に使ってみませんかご提案をいただいている。

○歴史自然史とは、なんとなく過去のイメージが出てくるが、現在・未来という雰囲気やメッセージを発信して欲しい。

○生涯学習の一環で、どんどん高齢化が進んでいる社会になっている一方、元気な方も多い。高齢者の方々や大人の方々に対するスキルアップをする取り組みはどのようなのか。例えば、普及活動の中で近世読み方入門講座、応用講座は、成果や結果が展示などに活かされているのかどうかをお聞きしたい。

博物館) 開館翌年から始めて各10回だが、入門講座は1回だけ、入門講座を受けられた方が応用講座を受けられる。応用講座は何度も受講できるようにしているが、その結果として人数が増えている。3年程前に一度整理して研究会・勉強会を作って続けている。

成果の反映に関しては、古文書などは展示の数は少ないが、点数が多いので、そちらの整理をお願いするような人材に育っていただくという考えで始めている。ボランティアでも関わるけれども、生涯学習にも館の資料の整理を含めて一石二鳥、三鳥となるような取り組みだと思っている。

よく使われる資料は活字に起こして広く活用していただくことを行っている。講座等に来られた方、勉強された方が書き起こす作業を手伝っていただいている、これから力になっていただける人材になってもらえるだろうと思っている。

今年から歴史系で小倉織の体験講座を教育委員会の生涯学習センターの講座で取り組んでいる。現在は常設できる場所がないことや人数の制限があるのでこれから本格的に力を入れて進めていきたい。

○特別展のリピーターに優遇制度があればいいと思う。また、常設展は1回では観きれないので何回も来ている人もいると思う。シニアは優遇制度があるが、若い人にはないのでリピーター回数券といったようなものがあると良い。

また、どこで写真を撮っていいのかがわからない場合がある。Facebookなどで“行ってきたよ”と書いてもらうことが増えると、自然増殖的に来館者や特に大学生のような若者が出てくるのではないかと思う。写真スポットを意識してつくられたら良いと思う。

博物館) 市の施策で年間パスポートを使える文化施設の導入がある。来館者の声として年間パスポートという声もいただいており、実現に向けて検討を行っている。来年の4月を目途にと思っているが、他の文化施設との関係もあって、調整もやりつつ1つの課題として実現したい。

○本年度、中学校の理科部会においては、自然史博物館及び科学博物館への対応組織を新たに立ち上げた。色々な教材やカリキュラムなどを作成するという要望などに対して対応する部署として作った。各学校への協力その他については、担当者に言えば理科の校長会に通達が来るようになってきている。逆にこちらからこういったことが出来ないかという時に、こちら側の窓口・連絡調整をする部署の構築が必要なのではないか。

博物館) 今年度、博物館利用の手引き(幼稚園・保育園が1つと小学校は理科社会合わせて1つ、中学については理科と社会が別)を、教育委員会の指導部及び各学校の先生方に入ってもらって委員会を作り、作成している。学校と連携を密にしながら、よりよく学校の方々にご利用していただけるようなものを目指していかなければいけないと思っている。

我々の体制のあり方も課題だと思うので十分にご指摘を踏まえて充実したものにしていきたい。